E lauhoe mai na waʻa (Everybody paddle the canoes together)

夫　明美

2012 年の夏も大阪では酷暑日が続きました。その熱を一層増したのが、7 月末から約半月にわたってロンドンで開催されたオリンピックではないでしょうか。4 年に 1 度の熱戦を観戦・応援するために、時差とも戦わなければいけない日々を過ごした方々も多かったと思います。本稿では今大会で競技選手から発せられた印象深いコメントについて振り返りたいと思います。

私自身が高校時代に水泳部に所属していたこともあり、競泳チームに大躍進は非常に印象的でした。オリンピック開催前から、平泳ぎの北島康介選手の 3 大会連続金メダルが達成されるかという点に大きな注目が集まっていました。彼は、2004 年のアテネ大会優勝時に、「超気持ちいい」という流行語を生みだしました。続く 2008 年の北京大会の 2 大会連続優勝時には「なーんも言えねえ」という、安堵感と連覇を達成した感無量の気持ちが伝わるような言葉を残しました。残念ながら、本大会の個人競技時に彼が表彰台に立つ場面は見られませんでしたが、水泳競技最終日にチームとして挑んだ 400 メートルメドレーリレーでは、4 人で銀メダルをつかみとりました。

レース終了後のインタビューで、第 2 泳者の北島選手は「自分の役割を果たして、後続のスイマーにつなぐ」と答えました。それを受けての第 3 泳者、本大会水泳チームの主将でもあるバタフライの松田選手が、「『康介さんを手ぶらで帰すわけにはいかない』とみなで話していた」とコメントを続けました。

水泳では背泳ぎ以外は水面上の景色を見ることが出来ないので（おそらく背泳ぎ選手も泳ぐことだけに専心していると思いますが）、泳者は、自分や自分たちのチームの順位やチーム間の距離を知るすべがありません。一旦プールに飛び込んだら、文字通り、見えないライバルやプレッシャーと戦うしかありません。その中で、自分がこれまで積み重ねてきた努力を信じて、自分の役割を果たそうとベストを尽くすことを 4 人全員が成し遂げたのではないかと思います。銀メダルという結果にも熱くなりましたが、お互いにベストを出し切ったと信じることから生まれる、相互の信頼感と尊敬やいたわりの念、また、これまでの水泳会をリードしてきた先輩選手への熱い思いに胸を打たれた明け方でした。

本稿のタイトルはカヌーをともに漕ぐことになぞらえて、チームワークを結集させることの重要性を説くハワイの格言よりつけています。最後に全文を引用します。

E lauhoe mai na waʻa; i ke kā, i ka hoe; i ka hoe, i ke kā; pae aku i ka ʻāina
Everybody paddle the canoes together; bail and paddle, paddle and bail, and the shore is reached.
Pitch in with a will, everybody, and the work is quickly done.